

大淀中学校便り

大阪市立大淀中学校

令和2年1月10日

■ 新年を迎えました ■

新年、あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いします。

さて、1月7日(火)、始業式を行いました。
新年を迎えるにあたり、始業式での校長先生の講話の内容をご紹介しますことで、ごあいさつにかえさせていただきたいと思います。



昨年話になりますが、12月25日(水)終業式の日に行われた地区奉仕活動では、皆さんが一生懸命清掃している姿に感銘を受けました。地域の方々からも多くの感謝の言葉をいただきました。今後、地区奉仕活動の日だけでなく、普段の生活の中で落ちているごみを拾うなどのボランティア精神を発揮できるようになることを期待しています。

さて、このボランティアという言葉が広がるきっかけとなった出来事が、今から25年前の1995年1月17日に起こりました。兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)です。多くの家屋が倒壊し、また、多くの方が亡くなりました。1日も早い復旧・復興をめざして、全国から大勢のボランティアが被災地に駆けつけました。

その結果、1995年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。また、震災の起きた1月17日は「防災とボランティアの日」に制定されました。

次の大きな災害が起こる日は、そう遠くないかもしれません。そのとき中学生は重要な役割を持つことになります。皆さんは多くの人を助ける側になることを期待されているのです。

それでは、もし災害が起こったとき、皆さんは何をすればいいのでしょうか。

「できることをできる範囲」で行ってください。これがボランティアの原点です。そして、できることとできる範囲をできるだけ大きくするためにも、日々の努力を怠らないようにしてください。

話は変わりますが、1月13日(月)は成人の日です。皆さんは一步一步その年齢に近づいています。それだけ責任も重くなっていきます。数年後、成人式の会場で久しぶりに会った友だちと気持ちよく中学生の頃の話ができるような関係でいてください。

3年生は中学校生活最後の締めくくりの日々を過ごすことになります。1・2年生は新しい学年に進級します。これから未来に向かって歩み続けていくのです。新しい年を迎え、皆さんに次の言葉を贈ります。

『過去は変えられない。しかし、過去を忘れずに学び続けることはできる。そして、未来をつくることはもっとできる。その未来を輝かしいものにするためにも、今を大切に生きてください』

■ 人権学習講演会 ■

12月6日(金)、PTA保健厚生・人権啓発委員会の主催による人権学習講演会が行われました。



当日、N I T情報技術推進ネットワーク株式会社代表取締役 篠原 嘉一先生を講師としてお招きし、「情報モラルと人権」についてご講演いただきました。

スマホ画面の中のアプリをパワーポイント画像で紹介しながら、ネットトラブルについてとてもわかりやすくお話しいただきました。普段よく使うアプリに潜む危険性を、実際に起こった事件をもとにしながらお話しいただいたので、単におもしろいだけでなく、その仕組みを理解しなければとても恐ろしいことに巻き込まれるのだということがよくわかりました。

投稿動画やネットゲームにのめりこんだ結果、人生を棒に振ったという事例がたくさん起こっているということも教えていただきました。

『スマートフォンを持っても使わない我慢（不便体験）と言葉を使っのコミュニケーション能力を高めること。そして、「できること」と「していいこと」はちがうということ覚えておいてください』という篠原先生のお言葉が特に印象に残りました。

■ 研究授業・研究協議 ■

12月11日(水)、初任者・5年次・中堅教員研究授業を行いました。

初任者研究授業として、3年女子全員を対象とした保健体育の授業を行いました。授業内容はバレーボールです。集合・準備運動・説明を聞くときの態度など規律ある中で授業が進められました。続いて行われたバレーボールの実技では、真剣さの中にも楽しさを忘れず、お互い励ましあいながら授業に取り組んでいました。

5年次教員研究授業では、1年2組で美術の授業を行いました。内容は色彩についての学習です。自分の好きな色をつくるために絵の具を使って混色するのは、多くの生徒にとってとても難しく、また、わずらわしいものです。これを解消するため、タブレットを使って色彩構成することで、より簡単でしかも理解しやすくなるという新しいスタイルでの授業が展開されました。

中堅教員研究授業では、2年2組で家庭分野の授業を行いました。内容は日常食の調理と地域の食文化についてです。和食の特徴である「うま味」について、「だし」を通して日本の食文化にふれ、さらにSDGsの内容にも関連させた授業が展開されました。班別に調べた内容をホワイトボードにまとめ、食材から考えた一品料理を発表しました。

研究授業後、研究協議を行いました。当日、大阪教育大学教授 松永 尚子先生をお招きし、指導・講評をしていただきました。

I C Tをフルに活用した授業展開もさることながら、生徒たちの楽しくかつ真剣に授業を受けている姿や、これをさらに発展させるための研究協議のあり方に対して、たくさんの賞賛のお言葉をいただきました。

ホームページの「配布文書」内の『学校便り』には、3ページ（3年実力テストと1・2年チャレンジテスト）、4ページ（研究授業時の写真）を掲載しています。

■ 3年 実力テスト ■

1月8日(水)、9日(木)の2日間で、3年生の実力テストを行いました。これが最後の実力テストであり、3年間の集大成を問うテストでもあります。さらに、これから行われる入試を占うことにもなります。実力を存分に発揮することができたでしょうか。



さて、この実力テストの期間と、これに先立つ始業式の日、校長先生と進路担当の先生、3年所属の先生方が、私立高校に進路相談に出向きました。その結果を3年生に伝えるとともに、これから受験に向けて必要な書類を作成していくことになります。

私立入試は2月10日(月)です。11日(火)に面接などが行われる学校もあります。また、私立入試の前に、学年末テストがあります。日程及び実施教科は以下の通りです。なお、行事予定表でお示しした23日(木)の理科と英語の時間を変更しました。

1月22日(水) 数・社・音

1月23日(木) 英・理・保体

1月24日(金) 国・美・技家

入試当日まで、今まで以上に充実した取り組みの日々を送らなければならないのは言うまでもありません。しかし、それ以上に大切なのは体調を万全にすることです。心身ともに最高の状態で受験することができるように心がけましょう。

■ 1・2年 チャレンジテスト ■

1月9日(木)、1・2年生のチャレンジテストを行いました。

1年生は昨年度3教科(国語・数学・英語)で行われましたが、今年度はチャレンジテストplusとして社会と理科が加わり、5教科で行われました。なお、チャレンジテストplusは大阪府が実施するテストであるため、大阪府が実施するチャレンジテストとは取扱いが異なります。

結果の提供について

結果は、生徒一人ひとりに個人票で、2月末に提供され、以下の内容が記載される予定です。

①大阪府全体の得点ごとの生徒の割合

②問題形式別の個人の得点と

大阪府の平均点

③問題領域別の個人の得点と

大阪府の平均点

④問題ごとの個人の結果と

大阪府の正答率

調査書の評定について

各中学校が調査書に記載する第1、第2学年のチャレンジテスト実施教科の評定は、大阪府教育委員会が提供する「評定の範囲」に示す得点の範囲内であることが必要です。

「評定の範囲」とは、各中学校における生徒の評定が、妥当性・信頼性の高いものであるかどうかを判断し、選抜の公平性を担保するため、府内中学校の仮評定とチャレンジテストの結果から算出し、大阪府教育委員会が示す得点の範囲のことです。下の表は、昨年度の第1学年国語の評定の範囲です。

評定5	評定4	評定3	評定2	評定1
100点	88点	76点	56点	48点
ゝ	ゝ	ゝ	ゝ	ゝ
56点	41点	22点	8点	0点

■ 研究授業のようす ■

《保健体育の授業》



3年生女子は活発な生徒が多く、運動好きな生徒がたくさんいます。昼休みにはグラウンドでバレーボールをして遊んでいる生徒がよく見られます。また、4割の生徒がバレーボール部に所属していたため、見本になる生徒もたくさんいました。真剣さの中にも楽しさを忘れず、お互い励ましあいながらバレーボールに取り組んでいました。

《美術の授業》



1年生は1学期にレタリングを学び、2学期前半に色の三要素（色相、明度、彩度）、色のもつ感情（寒暖、軽重、強弱）、色相環について学習しました。

今回の授業では、色や形のもつ要素や視覚的効果を考えたうえで表現していくためのイメージづくりを行いました。

絵の具を使って自分の好きな色をつくることはとても難しく、またわずらわしいものであるため、敬遠されがちです。これをタブレット（デジタル）で作成することで、簡単でしかも楽しく色彩のイメージを考えることができました。

今後は、タブレット（デジタル）と手描き（アナログ）の両面の特性を理解し、表現できるようになるための授業を展開していきます。

《家庭分野の授業》



2年生は「うま味」成分について調べ学習を行いました。グルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸の3大うま味成分が何に多く含まれているのか、なぜ関西では昆布だしが多いのか、などについて考えを深め、使用した食材から設定に応じた一品料理を考えました。その内容をホワイトボードにまとめ、班別にプレゼンテーションを行いました。自分たちの調べた内容と他の班の調べた内容を比較し、これをさらに発展させるような展開で授業が行われました。